学校だより「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～



平成３１年１月１０日（木）発行　№３６　　文責　塩川小学校長　佐藤　寅記

「感謝」と「希望」の三学期　～さらなる飛躍の年に！～



3つの目標をもって、3学期がんばります。

５１日ある三学期の１日目、その始業式で、こんな話をしました。

「３学期には、２つの意味があります。一つは、今の学年で身に付けなければならないことをしっかりと身に付け、学年のまとめをする大切な学期です。二つ目は、次年度に向け、一つ多くなる学年で、しっかり学習・生活していくための準備の学期でもあります。今の学年のまとめと、新しい学年の準備をしっかり行ってください。

そこで三学期は、「感謝」と「希望」の２つの言葉を大切に過ごしてほしいと思います。

人は、必ず誰かに支えられたり助けられたりして生きています。ですから，何事にも感謝の気持ちを持って生活して欲しいと思います。その時その時に、「〇〇さん、ありがとう。」の感謝の言葉を口に出して言いましょう。今年は、いのししの年です。十二支の中では、１２番目、最後の年です。子年から始まって、亥年で、いったん終わりを告げる年です。このことは、次の始まりに向けて新たなエネルギーを蓄える年と考えることができます。そのためには、自分はこうなりたいという希望を持つことが大切です。それは、自分を高める原動力となります。

平成 ３１年も、子ども達にとって、さらなる飛躍の年となることを願います。どうぞ本年も本校教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

為すことによって学ぶ　～活動して感じ、考え、自ら行動を変える～



平成30年福島県算数数学ジュニアオリンピックにおいて、本校5年生山口優颯くんが、みごと「銀メダル」に輝く快挙を成し遂げました。山口くんは、メダル獲得を目標に、日夜努力したそうです。

人は、感じ方や考え方などの内面（資質・能力）が育つことで、社会的な人間へと成長します。聞くより見る、見るより”やってみる”ことが大切です。それも、言われてやるより、自らやってみる方がより効果的であります。そのためには、夢や希望、目標を持つことが必要です。

夢のある者には希望があります。希望のある者には目標があります。目標のある者には計画があります。計画のある者には努力と行動があります。努力と行動ある者には進歩があります。そして進歩のある者には夢があります。

「あ・は・も」の「も」（目標）の前提には、夢や希望が必要です。また、目標達成のためには、具体的な活動や経験が必要です。本校では、聞いて憶えさせる学習（記憶中心）でははなく、子どもが活動することで、感じたり考えたりする学習を充実させる教育を施してまいります。

プライド教育　～自分に、学校にリスペクト！

「他人のものさし　自分のものさし　それぞれ寸法がちがうんだな」これは、相田みつをさんの言葉です。この言葉のように、人は得意なところやよいところは人それぞれです。他人の尺度で自分を比べると自信をなくしてしまいますが、自分のよいところや得意なところに目を向けられるようになると、自信を高め何事にも挑戦できるようになります。

本校では、自分の尺度で自分を正しく見つめることを通して自信を高める教育を大切にしています。それを「プライド教育」（自己肯定感や自己効力感、自己有用感等を高める教育）という言葉で実践し、具現していきたいと考えて指導しています。

真の自尊心は、自分が必死に努力をして何かを成し遂げるような経験がないと、それを抱くのは難しいように思います。自分が時間をかけて、目標を達成、もしくはそれに近づく経験をしてはじめて、自己の価値や存在意義が深くわかってくるのだと思います。

そんな経験も大切にしながら、自分を誇れる子どもに高めていきたいと思います。

ちょっといい話

始業式の日、一番に登校してきたのは、別府３班でした。その班は、５年生の班長のＴ君を先頭に、一列で整然と登校してきました。そして、校門で出迎えていた私に、「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。」と、２年のＪ君があいさつしてきました。そして、昨日、雪がコンコンと降る中、やはり班長を先頭に、整然と一列で学校に向かってきます。玄関に入ると、６年生が下級生に、服や傘に付いた雪の落とし方を教えていました。

礼儀正しさと規律、思いやりの態度は、本校の自慢です。